

邦人實力

敬服に値す

加州の地を巡視して同胞發展

の實際狀態を見、今更ながら

同胞の實力の大且つ強なるに敬

服した。地方によりて無論一

様ならざれども、大陸に於て日

本人の居住する所は、

日本の農業は、

本人の居住する所は、

日本無くば立ち行かざる狀

態に在る。殆んど何處も同様な

之を北加州の手邊の果樹園

に見るに、櫻、桃、李其他の果

實園の手入れは勿論、果

及ぼすは實に日本本邦の

之を以て各地の勞働者を補助

して使用するに非ずんば満足

ある仕事で爲す能はず、日本人

に至るに非ざる限り立ち行か

るが故に耕作生産すること

最も優秀なる技術を示し居

ても最も優秀なる技術を示し居

るものには日本人にして、市河

下の方面的芋、葱等の野菜園も

日本により始めて満足に而

て好成績に耕作生産すること

最も優秀なる技術を示し居

ても最も優秀なる技術を示し居

るものには日本人にして、市河

下の方面的芋、葱等の野菜園も

日本により始めて満足に而

て好成績に耕作生産すること

最も優秀なる技術を示し居

ても最も優秀なる技術を示し居

ものには日本人にして、市河

伊太利空の猛者岡大尉來桑

休戦になつて航空監督委員を代理し更に獨逸に赴いた

今は各國共に整理時代を語る

税關署の手續の如き

萬曆を排して此際

日英同盟を繼續すべし

獨逸に機械が盛に

獨逸に機械が盛に

本社東京特電

日本大使北京行

日本大使北洋行

小長篇 金色の海

(III) 翁六溪

金色の海

翁六溪

土壤水分の話

(二)

▼ 理論を平易に説明して

實際農業家の参考に資す

▲ 生長が自由に出来ない

土壤をアースにして外に排水を

そうしないと水分の貯藏力が減

走るのみでなく根の

生長が止まつて

石でカバーするのであるが

は實行を勧める爲めに云ふので

なく唯時々

▲ 烟に石塊が澤山ゴロゴロして居た時代に風土中の水

か石でカバーするのであるが

は實行を勧める爲めに云ふので

よくするが底上に空気が

多く浸入して分解作用等によ

り作物の生長が促進される

かの如きの現象を説く

灰ご肥料の類を使用する専

一層効力がある

以上極端なる砂土粘土二種類

究し其缺點長所を極めて有するが其取扱い

て改善して最高の収穫を

得るが其の方法が下手である

中間には其混合より成る色々

の種類の土質はあるが専門家によると

比較的容易であつて耕作し

作物の種類も多くの如きの土質を研究する結果は常に自分なりの土質を

中間には其混合より成る色々

の種類の土質はあるが専門家によると

比較的容易であつて耕作し

作物の種類も多くの如きの土質を研究する結果は常に自分なりの土質を

中間には其混合より成る色々

の種類の土質はあるが専門家によると

比較的容易であつて耕作し

作物の種類も多くの如きの土質を研究する結果は常に自分なりの土質を

(四) 1919年9月8日曜火

六月八日正大

実際農業家の参考に資す

▲ 生長が自由に出来ない

土壤をアースにして外に排水を

そうしないと水分の貯藏力が減

走るのみでなく根の

生長が止まつて

石でカバーするのであるが

は實行を勧める爲めに云ふので

なく唯時々

▲ 烟に石塊が澤山ゴロゴロして居た時代に風土中の水

か石でカバーするのであるが

は實行を勧める爲めに云ふので

よくするが底上に空気が

多く浸入して分解作用等によ

り作物の生長が促進される

かの如きの現象を説く

灰ご肥料の類を使用する専

一層効力がある

以上極端なる砂土粘土二種類

究し其缺點長所を極めて有するが其取扱い

て改善して最高の収穫を

得るが其の方法が下手である

中間には其混合より成る色々

の種類の土質はあるが専門家によると

比較的容易であつて耕作し

作物の種類も多くの如きの土質を研究する結果は常に自分なりの土質を

流る・雲

(八九)

寺澤琴風

蛇

(二)

柳川さん

何うしたんです。

貴一が、不意に立つて行つた

ので、八重次が斯う聞いた。

「今外で、ガタンといふ音がし

たちやないか。」

さうでしたか。気がつきませ

んでしたが。

「米吉、お前は何うだ。」

米吉は、俯向いて、堅く居

を喰んだ儘答へなかつた。

「あら、米ちゃん、何うしたん

です。」

八重次は、米吉の悲しげな様

子に、始めて気がついて、斯う

言つた。

僕のここに賣

少し賀草がす

「何もしないんです。けれど私

先に失禮させて頂きましたわ。

米吉は、俯向いて、堅く居

を喰んだ。

「うそ、机

の抽斗が、寶丹

を取り出した。

「難有う。私澤

山。」

さう云つて、

米吉は、突然、リフ

と其處に泣き崩

れた。

「また、何うし

たんです。米ち

やん、確乎して

頂戴よ。」

米吉、何うしたのか。」

宜いんです。宜いんです。私

部へいた。僕の

心地が悪くなる

からです。米ち

やん、確乎して

頂戴よ。」